

平成28年度 病害虫防除技術情報 第4号

平成28年11月1日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

平坦地域における白ネギべと病の防除対策について

平坦地域の白ネギでは、近年11月から12月にかけて、べと病の発生が多い状況が続いており、圃場内の菌密度が上昇していると思われます。そのため、今後、平均気温が13～20℃の日に降雨が続くと、べと病の多発生が懸念されます。これから本病を対象とした防除を行う重要な時期になりますので、まだ発生していない圃場においても予防散布に努めてください。

1. 昨年の10月から11月の気象とべと病の発生状況

平成27年は10月にはべと病の発生が見られませんでした。翌月の11月までの間に急激に広がりました。今年度も10月の調査結果では、べと病の発生は確認されませんでした。昨年のように降雨が多いと昨年同様に広がる可能性があり、注意が必要です。

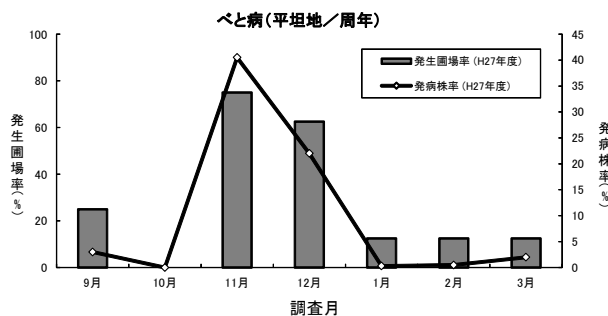


図1 平成27年度べと病発生状況

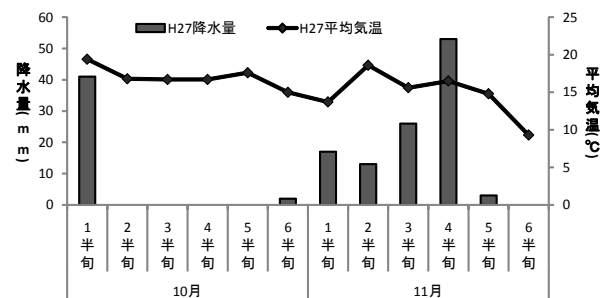


図2 平成27年度気象 (豊後高田市)
注) アメダス

2. 防除上注意すべき事項

- (1) べと病は感染後に潜伏期間があり、その後、発生に好適な気象条件が続くと急激にまん延する。気象に注意し、適期に防除を行う。
- (2) これからの時期の散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) ネギは薬剤が付着しにくいので、必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するように散布する。
- (4) 排水対策を施すとともに、肥料切れしないよう適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。なかでも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)